

はじめに

本書『目黒区の教育』は、令和5年度に目黒区教育委員会が取り組んだ事業内容をまとめたものです。

昨年度、本区の教育は、明治7（1874）年1月に区内で最初の学校として八雲小学校が誕生して以来、150周年という節目の年を迎えました。めぐろ歴史資料館では、目黒区の教育の歩みを振り返る特別展を開催するとともに、八雲小学校では、地域と一体となった開校150周年記念式典が盛大に開催され、これまで重ねてきた歴史の重みを感じる一年となりました。

一方で、次の時代に向けた取組として、令和7年4月に同時開校する「目黒南中学校」と「目黒西中学校」の統合新校2校については、生徒参加による標準服の検討や、校章デザイン教室、校歌制作ワークショップなどを実施し、開校に向けた準備を加速させました。

また、5年間にわたって文部科学省の指定を受けて研究開発を進めてきた「小学校40分授業午前5時間制」について、区内外の多くの教育関係者を招いて研究発表会を開催しました。令和6年度からは、新たに中学校2校を研究開発校に加えて「中学校45分授業」を実施し、時代に先駆けた先進的な学校づくりに取り組んでまいります。

さらに、全ての小・中学校にデジタルドリルやAIドリル、学習eポータルを導入してGIGAスクール構想を一層推進させるとともに、全区立図書館に無線LANを整備して利用者の利便性向上を図るなど、様々な教育環境の整備に取り組みました。

令和6年度は、学校運営協議会の設置に向けた取組や、部活動の地域移行を見据えた検討、教員の働き方改革の更なる推進、目黒区特別支援教育推進計画（第五次）の策定など、地域とともにある学校づくりや子どもたちの学びを支える環境整備に向け、諸課題に取り組んでいく一年となります。引き続き、目黒区の教育行政の取組について、皆様のご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

令和6年8月

目黒区教育委員会

教育長 関根義孝